

## 2年生「職場体験学習」を終えて

老上中学校2年生チャレンジ・ウィークの職場体験学習を7月4日(月)から8日(金)の5日間、実施しました。今年度は36の事業所に分かれて実習をさせていただきました。事業所の皆様には業務ご多用の中、温かく丁寧なご指導をいただき誠にありがとうございました。

実社会で働くことを経験したり働く大人の方々に直接ふれたりすることにより、生徒にとっては勤労の意義や大切さを学ぶとともに自己の将来の生き方を考える貴重な機会となりました。自ら働くことにより、あいさつやコミュニケーションの大切さを再認識するとともに、働くことの大変さを実感した生徒が多くいました。また、親への感謝や尊敬の念をより強く抱いた生徒がいたことも大きな成果だと考えています。職場体験学習後の2年生一人ひとりが自信をもった表情で1学期を終えたように感じます。



### 〔老人ホームで体験した生徒のふりかえりより〕

初日はどんな話をすればよいのかわからず、ほとんど隣に座っているだけでした。・・・(中略：徐々に話ができるようになったこと、食事のお世話をしたことなど)・・・車いすを押したり、ごはんの補助をしたりするのは、すべて私たちが手伝ってしまうのではなく、できることは利用者さんにしてもらうことが大切だと知りました。私たちがしてしまえばすぐに済むけど、使わない筋肉はすぐにおとろえてしまうと教えてもらいました。利用者さんにとっての「しあわせ」は一人ひとり違うから、それぞれ幸せだと考えていることを大切に、ということ意識されていることも知りました。・・・(中略)・・・老人ホームはもっとピリピリしたふんいきだと思っていたけど、すごく明るくて利用者の方はみんな笑顔でした。私も将来、人を笑顔にできる仕事につきたいと思いました。

## 1年生「琵琶湖体験学習」を通して



老上中学校では、例年、1年生で「琵琶湖環境体験学習」を総合的な学習の時間の取組として進めており、今年度は7月4日(月)に、夏空のもと、大津市の民間教育支援施設「オーバル」で、無事実施することができました。この日は、琵琶湖の自然や環境の変化、レジャー・レクリエーションの場としての琵琶湖を考える日として、具体的には、①カヌーでヨシ帯観察 ②ヨシ紙を使った笛づくり ③釣りをとおしての外来魚調べ ④ドラゴンボート体験 の4つの学習活動を行いました。



今回、生徒たちが「そうだったのか!」と感じたことがいくつかありました。そのうちの一つとして、釣りで感じたことを一つ。この釣りでは、やはり「ブルーギル」がたくさん釣れました。しかし、以前に比べると、釣れる数も減ってきたそうです。それは、外来魚のリリース禁止などの琵琶湖ルールにより外来魚の数も減ってきているからだそうです。にもかかわらず、固有種は増えていないそうです。なぜでしょうか・・・? そこにはやはり水質の問題があるようです。琵琶湖は400万年もの歴史を持つ世界で3番目の古代湖、日本の10人に1人が琵琶湖の水を飲んでいると言われています。こうした琵琶湖のすぐ近くに生活する私たちにとって、改めて自然環境について考える機会になりました。

### 〔生徒のふりかえりより〕

私がオーバルで一番たのしかったと思うことは、カヌーです。カヌーは、何回か落ちかけたり、人にぶつかったりしましたが、うまくこげるようになって、ヨシの観察ができたりして、楽しかったです。・・・(中略)・・・ヨシについて学んだときは、ヨシが水をきれいにすることができることにおどろきました。オーバルでは琵琶湖の環境のことだけでなく、人が協力することも学べたのではないかと感じました。

# かけがえのない命、せっかく授かった命だから。。。。

7月3日(土)、アミカホールで、草津市青少年の主張発表大会が行われました。

大会では、市内中学校7校と高校1校の代表者が日頃感じていることなど身近なことをテーマに発表を行いました。どの発表も聴衆に感動を与えるすばらしい内容でしたが、本校3年生の立岡砂椰さんは「私が最近考えること」と題してかけがえのない命をテーマに発表し、見事、最優秀賞を受賞しました。

そこで、その発表内容を紹介します。

\* 本人と保護者から掲載について許可をいただいています。



## 私が最近考えること

かけがえのない命。せっかく授かった命だから、無駄にはしたくない。一度きりの人生だから、たくさん楽しみたい。でも、私は、一体何のために生きているのか。

最近、そんなことを考えます。

私の母は、流産をくり返し、姉を授かりました。その時、六ヶ月間入院し、姉が生まれましたが、未熟児だったのもあり、大切に育てられたそうです。それから八年経って、私が生まれました。無事に誕生することはできましたが、腎臓に障害があり、「水腎症」と診断されました。そのため、よく熱が出たり、白く濁った尿が出たり、お腹が痛くなって血尿が出たり、逆に尿が出なくなって、顔や体がパンパンにむくむくもありました。大きな病院に入院し、手術も受けました。これからも、成人するまでは定期的に検査を受けなければなりません。幼い頃は、外遊びも禁止だったので、いつも母と一緒に絵を描いたり、折り紙をしたり、お菓子を作ったりして遊んでいました。

十歳の頃、母が病気になり、子宮を摘出する手術を受けました。一緒にいることが当たり前になっていたのに、不安で不安で仕方がなかったです。「死んでしまうのかな・・・」などと考えてしまい、眠れない日もありました。母の手術は無事成功し、とても安心したのを覚えています。命の重みを実感することになりました。

今年の春の修学旅行では、沖縄に行って平和と命の尊さについて学習しました。罪のない人々まで巻き込まれ、たくさんの命が奪われてしまった、沖縄戦。「生きたい」と願っても、生きることができなかった人がたくさんいたと知りました。ですが、それは決して昔の話ではなく、世界を見れば、生きることさえできない人が、今でもたくさんいます。また、子どもたちに目を向ければ、お金がない、働き手が足りないなど、さまざまな理由で、勉強をしたくてもできない人がたくさんいます。私はなんて幸せなのでしょう。生きていることが当たり前になり、中学三年生までは義務教育で、必ず勉強ができます。教科書は、税金によって無償で支給されています。戦時中のように、飛行機の音がうるさくて勉強に集中できないことなんてこともありません。

でも、どうしても面倒になって、勉強が嫌いになってしまうことがあります。特に、苦手な教科は覚えることができず、テストの点数も伸びないので、やる気をなくしてしまいます。だんだんと受験も近づいてきて、不安になったり、焦ったりもします。しかし、そんな時こそ、勉強できることがどれだけ幸せなことか、考えるべきです。身近にありすぎて、今まで気がつけなかった幸せに気づいた時、人は一歩成長できるのだと思います。私は、目の前にある小さな幸せにも気がつけるように、自分と向き合い、周囲の人たちへの感謝の心も忘れない人になりたいです。「ありがとう」と、きちんと言葉にして相手に伝えられるようにしていきたいです。

「何のために生きているのか。」その答えは私にはまだわかりません。それでも、いつかこの答えを導き出せるように、「挑戦」してみるということを大切に生きていきたいです。挑戦してみて、無駄になることなんてありません。全てが、人生の肥やしになると思っています。だから、楽しいこと、悲しいこと、嬉しいこと、悔しいこと・・・これからもたくさんの経験を積み重ねていきたいです。

私には、小学校の教師になるという、将来の夢があります。その夢を実現させるために、今やるべきことは何か、しっかりと考え、行動に移せるように頑張ります。たった一度きりの人生。後悔だけは残さないために。